

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600187		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター黒沢尻 1階ユニット(一休)		
所在地	024-0084 岩手県北上市さくら通り3丁目18-10		
自己評価作成日	平成28年8月10日	評価結果市町村受理日	平成28年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390600187-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様、一人ひとりの個別性を重視し、その場その場で柔軟な対応ができるよう努めております。また、入居者様、職員だけでなく、ご家族様も参加しての外出行事や畑作りなども行うことで、入居者様とご家族様の関係が保たれるようにも努めております。ホーム内で行なわれる行事の際には、できる限り近隣住民の方々へも案内を出すなどして、地域との交流にも力を入れるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・開所時に、職員で決めた理念「やさしさを明るい笑顔で届けます」は職員間に浸透している。
- ・協力医療機関、協力歯科医療機関、訪問看護事業所、介護施設との緊密な連携ができており、適切な医療・介護サービスを提供している。
- ・毎月1回、事業所見学会を行っており、近所の方が遊びに来たり、家族の相談をしたり、地域と日常的交流がなされている。
- ・1階(一休)2階(スマイル)は、利用者職員との関わりで、それぞれ個性ある運営がなされている。(静と賑やかさ)
- ・介護計画は、職員全員で話し合いを重ね、利用者もカンファレンスに参加し、計画を作成している。家族にも計画の変更事項が分かるよう工夫し、説明している。丁寧にきめ細やかな内容である。
- ・個々の介護記録は、当事業所独自に作成しており、提供したケアの評価が共有できる優れた様式である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に職員で話し合い、事業所理念を決定した。ホーム入口に掲示し、ミーティング時には職員で唱和している。	理念「やさしさを明るい笑顔で届けます」を、玄関に掲示している。ミーティング時(月1回)唱和している。また、スタッフにふさわしい行動12項目を策定し、1ヶ月に1項目唱和し、振り返りをしている。反省は、よかった点だけを述べている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧版を通じての情報共有やイベントがある際には、ご近所の方にも案内状を配り、交流に努めている。	毎月1回の事業所見学会には、近所の方が遊びに来たり、家族の認知症の相談を受けたりしている。地区の芸術祭に作品を提出している。事業所主催のニチイ祭りには、ボランティアが、アコーディオンの演奏や踊りを披露し、地域の方も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご希望があれば相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、参加者との意見交換を行い、役立てている。	協力医院、協力歯科医院も委員で、病院の休憩時間にあわせ13時15分から14時の間に開催している。会議は2階のホールで行い、1、2階の利用者も聞いている。委員から、インフルエンザの予防接種や口腔ケアについて助言をいただいている。家族は、散歩やイベントへの協力を申し出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は地域包括支援センターの方に運営推進会議に参加していただき、アドバイスを受けている。	更新申請に、市の担当課へ体力作りも兼ねて徒歩で、利用者も一緒に出向いている。包括支援センターの方からは、買い物等外に積極的に出て地域の方と話したりすること等の助言をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各自、常に意識を持ち、業務にあたっている。また、職員同士でも注意を払っている。	ニチイ「高齢者虐待防止マニュアル」(H23.4作成)を研修に活用している。言葉による拘束に注意し、食事介助・排泄介助等、項目ごとに「絶対言うべきでない言葉」とそれに対比する「心地よいことば」を書き出し、検討し、ケアの向上に活かしている。玄関は、夜間には施錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に勉強の機会を持ち、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設けていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に説明をし、不明な点については十分に説明をし、ご理解いただいたうえで契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者ご家族を対象として「顧客満足度調査」を実施しており、結果を職員で回覧し、取り組んでいる。	ニチイ(法人)では、各サービスごとに入居者家族を対象として「顧客満足度調査」を実施している。結果は職員に回覧し、改善が必要な事柄については、改善計画を提出し、改善に向けて努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、行なっている。	朝・夕の申し送りやミーティング(月1回)、カンファレンス時に提案されたことを即実行すること、支局に報告することを施設長が判断している。個別には、随時行っている。自己評価表は、6月から取りかかり、職員全員が記入したものを管理者がまとめ、回覧している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己研鑽の為の研修参加等の希望に添えるよう、できる限りシフト調整をおこなうなど職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各個人の個性や意欲を大切にして、資格取得に関してのアドバイスや資格を現場に活かせるよう勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の場を作れるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時から入居者の困っていること等に耳を傾け、できる限り納得いく対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時、契約時に家族等が困っていること等を伺い、把握するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、入居前のケアマネ・関係機関と連絡を取り、必要な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを見極め、役割を持った生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時にはできる限り来所していただき関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用している美容院への外出など、ご家族、ご親戚関係の協力のもと支援提供している。	友人が訪ねてきたり、娘さんの友人が訪ねて来て、自室で面談され、その際は、職員がお茶を出している。独居だった方と自宅に行き、空気を入れ替えたり、畑の草取りをしたり、本人の希望に添った支援をしている。散歩の途中に、かかりつけの病院に寄り、ロビーで先生や事務の方と話したりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や関係性を理解し、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から要望があれば、契約終了後も相談に応じるような体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅へ行きたいなど、突発的な要望があった際、ご家族に連絡を取り、可能であれば自宅へ行くことも行っている。	日々のかかわり(特に入浴介助時)の中で話したこと、気づいたことを、個人ごとの情報交換ノートに記載し、職員で共有している。また、介護計画に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、入居前に関わりのあった事業者やケアマネからの情報、毎日の生活を通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の言葉やご家族からの要望を伺い、定期的なカンファレンスから計画書を作成している。	アセスメント、モニタリングを繰り返し、カンファレンスには本人も参加している。カンファレンスでは、介護記録、業務日誌、申し送りノート、個々の情報交換ノートを活用し、プランの検討をし、介護計画は、計画作成担当者が作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、業務日誌の他に、申し送りノートを活用し、情報共有や計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態に合わせたサービス内容を提供できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な範囲で、区長・近隣住民等の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(主治医)の受診は、原則として施設で対応している。また、定期的な往診や必要時の電話相談も行い早期対応に努めている。	かかりつけ医(主治医)の受診は、原則として職員が対応している。また、定期的な往診を受けている方もいる。結果については、家族に報告している。協力歯科医院も含め、協力関係が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約し、週一回の健康管理や相談支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、面会時に情報交換を行い、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りは行っていない。入居に当たっての説明段階で、当グループホームでできること・できないことの説明をし、ご理解をいただいている。また、当グループホームでの対応が困難となった際には、協力医療機関や施設等と連絡を取り、今後の対応に努めている。	入居にあたって、看取りは行っていないことを説明し、了解の上利用いただいている。重症化した場合、可能な限り介護しており、対応は困難となった際には、協力医療機関や他の介護事業所と連携を図り、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを設置し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年、10月に夜間想定での避難訓練を実施した。	夜間想定を含め、年2回、避難訓練を実施している。職員から、避難訓練を増やしたいと提案があり、毎月9日を救急の日に決め、様々な取り組みをしたいと考えている。現在、火災、地震想定のマニュアルを作成中である。	災害別のマニュアルの早期作成と、夜間の訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という意識を忘れずに接してきている。	声かけは、名前が同じ方が多いので、苗字で呼ぶことが多い。自尊心を傷つけない言葉に注意している。「絶対言うべきでない言葉」「心地よい言葉」を意識し対応している。排泄の失敗についても、大便是、黒三角(▲)小水は、白三角(△)と、職員同士の暗号を決めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や要望を上手く表現できない際でも、相手の意向を理解することに努め、自己決定へ繋げられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添えるよう、できる限りの対応に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回の訪問理容やご家族の協力も得ながら、同じような着衣にならないよう声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食べ物の把握に努め、状況によっては別メニューを提供している。また、調理に関心がある入居者とは、できる限り一緒に調理や下準備を行っている。	本部から献立の見本が示されているが、旬の食材や在庫を活用し変更している。利用者は、食材の準備、盛り付け、配膳、片付け等役割を持っている。職員には栄養士もおり、栄養管理は行き届いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては、咀嚼や嚥下状態考慮し、各々にあった形態で提供している。 水分量に関しては、一日を通じて少ない入居者には、水分摂取を促し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは声かけにより実施している。また、必要に応じて、歯科受診や訪問歯科受診による対応を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間間隔を考えながら、トイレ誘導を行うなど、できる限りのトイレでの排泄を促している。	介護記録等で排泄時間を把握し、トイレに誘導(工夫のある声かけ)をしている。自立の方も3~4人いる。リハビリパンツに尿取りパットを使用しているの方が多い。夜だけおむつの方も、トイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある入居者に対しては、水分摂取や運動を促している。また、主治医から処方されている下剤よっての排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	同姓介助の希望を考慮した対応や希望者には入浴剤を使用しての入浴も取り入れている。	週2回以上入浴している。浴槽の湯は、一人ひとり交換している。夕食後の入浴を希望する方にも、対応している。また、入浴日以外でも、足浴やシャワー浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前、昼寝をされていた方など、各々の習慣に添った支援や、その日の体調を考慮した支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の薬に関する説明書をファイルし、内容把握に努めている。また、往診後、薬が追加になった際には、申し送りノートに記載し報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できること、できそうなことの把握に努め、各々に適した役割が持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状況によって、自宅へ行ったり、買い物へ行ったりして希望に添えるよう対応している。	天気の良い日は近くの公園に出かけ、子ども達をうれしそうに見ている。日用品の買い物に、随時外出している。桜、紅葉等季節の外出を楽しんでいる。家族との外出・外泊の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には小額のお金を預け、月一回の訪問理容後、支払いをして頂いている。 また、外出時、買い物をされた際には、支払い可能な入居者に対しては、できる限り支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、職員が電話をかけ、話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースであるフロアには、その季節に沿った飾り付けを行い、季節感を味わっていただけるよう支援している。	1階と2階のフロアは、季節の飾りや作品の展示等、各階が個性的に飾り付けされている。エアコンや扇風機、床暖房で、室温が適切に保たれている。また、利用者は、エレベーターもあるが、体力づくりを兼ね、階段で昇降し交流している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席以外の場所にも椅子を置き、同じ場所だけで過ごすのではなく、食事をする時とは違った角度からも回りを見回せるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた馴染みの物を持ち込んでいただいたり、居室でテレビを観たい入居者の方にはテレビを持ち込んでいただき、各々に適した居場所の工夫に努めている。	居室は、エアコン、クローゼットを設置している。寝具は持ち込みで、ベッドを使用したい場合は、個人リースとなる。テレビや仏壇、椅子、机を持ってきて、居室担当者と相談しながら配置している。家族写真を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り自立した生活が営めるよう支援している。		